

## 1 単元名 「言葉を読み継ぐ」(おくのほそ道)

### 2 単元の目標

- ・ 言葉の響きを感じながら切れ目を正確に捉えると共に、文体の特徴を踏まえその効果を考える。
- ・ 一つのテーマをもとに材料を集め、「比較」することを通じて物の見方や考え方を深めること。
- ・ 調べた事柄をもとに、「効果的な表現」を考え、自らの考えを伝える工夫をすること。
- ・ 古文を味わうことに親しむとともに、現在との関わりについて気づき、考えを深めること。

### 3 単元について

『おくのほそ道』は、これまで学習した古典(「竹取物語」「平家物語」)に比べて生徒にとって身近に感じることでできる作品である。それは、題材になる時代の生活が、例えば時代劇や大河ドラマ等の舞台として描かれることや、3年ということでの社会科の学習効果などにより、内容とイメージの連環が容易であるためと考えられる。

様々な媒体を介して情報を受容する生徒にとって、事柄を結びつけ想像力を働かせる活動や自ら課題を設定する力、他者を意識した表現活動といった経験は重要である。

このようなことを踏まえると、本単元では言葉と意味の結びつきや文体・音の響きといった言語表現面だけでなく、言語活動に関わる複数の観点から課題設定と学習活動の導入が可能である。そこで、「鑑賞・批評・比較・交流・関連」などを通して読みの深化を図ることができる。特に文字・文章として表れたものの背景へ視野を広げることで、現在との結びつきを考えることのでき、また読書活動への広がりを持つ単元である。

### 4 指導計画 (全7時間)

第一次 ・「おくのほそ道」「松尾芭蕉」について学習し、作品の背景的に広がりを持たせる。  
(1時間)

第二次 ・「旅立ち」の朗読・鑑賞を通じ、表現の仕方や文章の特徴について考えを深める。  
・「引用」の観点について考察する。(2時間)

第三次 ・「平泉」の朗読・鑑賞を通じ、読みを深める。  
・「虚構・創作」の観点から、表現の工夫について考察する。(1時間)

第四次 ・「立石寺」の朗読・鑑賞を通じ、読みを深める。  
・「推敲」、歴史的背景の観点から、表現の工夫について考察する

第五次 ・「旅立ち」暗誦テスト  
「効果的な音読の工夫」をすることを通して、作品に対する考えを深めると共に、  
古典の文章に親しむ基盤を持つ。  
・これまでの学習をもとに、『おくのほそ道』から任意の場面を取り出しレポートを作成する。その際文化・風習」の観点から資料を収集し、読みを深める。(2時間)

### 5 他教科との関連

- ・ 文化的側面から資料を収集することは、「過去と現在」を比較することで考えを深めることができる。よって、歴史的な視点の導入ということ、社会化との連携を図ることができる。さらに、比較の軸は「地域性」に据えることも可能であり、英語科との関連も図ることができる。
- ・ 自分の調べたことをまとめ、読み手を意識しながらレポートを工夫するは表現活動の一環である。図・表の使い方だけでなく、構図や空白の活用などは美術科との関連を図れる。
- ・ レポート作成や材料収集など、図書館を活用する。その際様々な観点で資料を活用することが可能であり、上記3教科以外との関わりも考えることができる。

### 6 評価規準

- ・ 古典に親しむ態度を育てる 

┌	古典読書の広がり記録する
└	暗誦テストに取り組む
- ・ 古典についての知識・理解を深める 

┌	『おくのほそ道』について文化的観点から、レポート作りに取り組む。
└	古語や古典文法について簡単な知識について理解する。